
親孝行の少年

アダムの肋骨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

親孝行の少年

【Nコード】

N2684D

【作者名】

アダムの肋骨

【あらすじ】

日差しの爽やかな朝、目を覚ますと目の前に母親がいた。そして僕はその人を殴りました。何故だろう

朝、目を覚ますと

目の前に母親がいた。

それはもう目と鼻の先にいた。

そいつの顔を見ていると何だかむしゃくしゃした気分になった、

都合がいいので殴ってみた。

母親の頭が首根っこごと窓の外へと飛んでいった。

母親の身体はというと、

僕の部屋からのんびりと出て行くところだった。

一体何しに来たんだろう

僕は服を着替えてから下に降りていった。

リビングに入ると、

母親と父親がいた。

やっぱり母親の首はなかった

父親と母親のいるテーブルを見ると、見覚えのある知らない男が座っていた。

満席なので僕は朝食を食べられない。

…僕はどうすればいいんだろう

よく見てみるとそいつは僕だった。

都合がいいので

僕は家を出た

家出してやろうと思った。

外に出てみると、

通行人の首がなかった。

首の切れ目から首の骨までが丸見えで結構面白い

僕はおかしいのでしょうか。

僕は悩んだ。

でも面白いからいいや

通行人を眺めていると、

排水溝に母親の首がひっかかっていた。

長い長い髪の毛が排水溝にひっかかっていた。

笑える。

でも面白くない。

どっちだよ…

やはり面白くないので僕は母親の首を背に歩いていった。

しばらくすると、アイスクリーム屋があったので

買おうと思った。

はらぺこなので、食べてみた。

でも今は冬なんです。

とてつもなく寒いんです。

といつことであつぱり家に帰るつや思つ

家出する気なんて初めから無かった。

アイスクリーム屋を背にのんびりと歩いていくと、

やっぱり母親がいた。

厳密にいうと首だけの母親がいた。

僕をじっと見つめている

目だけで訴えてくる。

何だかウザくなったので、

僕は母親の首をよそに、

家の中へと入っていった。

中に入ると、

母親の体がテレビを見ていた、

目も耳を無いのにどうやって見てるんだろっ

しばらくその様子を見てみると、何だかかわいそうになってきた。

そして今度は妙な罪悪感に襲われた。

母親がこうなったのは全て僕が悪いんだけど、さっきまでは全然そんなことも考えてなかった。

今は母親がとても怖い

排水溝にひっかかった首が、

目の前にいる体が、

僕に何かを訴えかけているように思えて仕方がなかった。

だから僕は外に出て、

排水溝にあるしなびた母親の首を取ってきた。

母親は何も言わずに首を受け取った。

まあ、何も言えないのじゃない。

母親は完全体に戻った。

そして僕は完全体の母親におやすみのキスをして、ベッドに入った。

やっと妙な罪悪感から開放された。

良かった。

朝、目を覚ますと

目の前に母親がいた。

(後書き)

* * e n d l e s s * *
(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2684d/>

親孝行の少年

2011年1月24日12時58分発行